

日本地球電気磁気学会会報 (第22号)

1966年 2月10日

日本地球電気磁気学会

事務所：東京都文京区弥生2丁目11

東京大学理学部地球物理学教室内

電話(812) 2111 内線 6476

坂替 東京 4860

第38回総会並びに講演会後記

第38回総会並びに講演会は去る11月3日から4日間に亘り京都大学工学部に於て予定通り開催されました。最新の設備を誇る新築間もない電気総合館に於て、太田大会委員長はじめ京都大学の方々の誠に行き届いたお世話により、甚だ快適に4日間を過しました。その模様を簡単に御報告致します。

さきに運営委員会では定期講演会毎に春は他の関連学会から、秋は当学会員から二三の人に特別講演をお願いする方針を決めておりましたので、今回は会期を4日間予定し、特別講演として

大林辰蔵氏 磁気圏内のエネルギーバランス

高柳一夫氏 上層大気中の二三の原子分子過程

早川幸男氏 惑星間空間の電磁氣的性質とその宇宙線への影響

の諸講演を三会員にお願い致しました。初めての試みではありましたが、夫々の立場から地球内外の電磁的諸現象を専門的ではあるが概括的に話していただくことは大変有意義であることを認識しました。講演者の方々には紙上をかりて御礼を申し上げる次第です。一般講演の申し込みは111の多きを数えるに到りました。学会開設以来の新記録であると思います。総会は第三日(11月5日)午後4時から委員長指名により大林運営委員が議長となって開かれました。今回は田中館賞の候補者の推薦がなかったので、太田大会委員長の歓迎の辞に続き直ちに加藤委員長の挨拶がありました。先づ特別講演者に謝辞を述べられ、次に田中館賞の候補者を推薦する様にと希望されました。又、長谷川記念杯の設定についてその主旨を説明されました。そして本学会の京都での初めての講演会(第2回)のとき講演数が38であったが、今日までの着実な発展を続け、国際的にも高く評価されるに至ったことは同慶に耐

えない。ここまで本会の国際的地位を高めたことに特に永田会員は非常な貢献をされたが、今後はより若い人々がその *Successor* としての心構えをもつことが肝要であると説かれました。複雑化した国際的な研究組織についてその説明を永田評議員に依頼して挨拶を終わりました。永田評議員は、現在の国際研究組織の改編状況を説明され、何れ *International Union Committee on Solar Terrestrial Physics* が確立するであろうが、それまでは日本では電離層研究連絡委員会を存続させることが最も望ましい事情を説明されました。総会は特別な議題がなかったので最後に長谷川名誉委員長長の祝辞を以て閉じました。

懇親会は午後6時から神泉苑に於て鍋料理を囲みながら開かれ、これ又多分京都大学の方々の予想を大巾に上回る参加者があり盛会でしたが、お世話下さった方では大変だったことでしょう。

大体以上の様な経過で四日間の大会を大変円滑に充実に終了することが出来ましたことは一重に京都大学の方々の並々ならぬお世話の賜であります。紙面をかりて厚く御礼を申し上げる次第です。

長谷川記念杯の設定について

長谷川名誉会員はさきに本会の発展の為に金30万円を御寄附されました。寄附金の使途は会の発展の為なら何でもよいという御意向でした。そこでこの寄附金の使途については前田前委員長のと時から幾度が運営委員会及び評議員会で議論されて参りましたが、去る11月5日の運営委員会で評議員会の助言をとり入れ、長谷川記念杯を設立することに決定しました。即ち、「日本地球電気磁気学会長谷川記念杯を設け、地球電気磁気学会に顕著な功労のあった会員に長谷川記念杯を贈り、その業績を表彰する」という主旨のもので、受賞者の選定基準やその方法を規制する内規は追って運営委員会で検討して定めることにしてあります。

第11回大太平洋学術会議における地球物理

関係の会合、その他についてのお知らせ

下記の文書が、地球物理学研究連絡委員会幹事よりとどいておりますので会員各位にお知らせ致します。

記

1. 昨年2月に第11回PSCに関する1st Circular がJSCの組織委員会

(2)

から出されましたが、2nd Circular は目下印刷中で、2月中にはお手もとにお送りされることになっております。

下記の諸項については、この2nd Circular を御参照下さい。

2. 地球物理関係の会合は、それぞれ

1. 気象, 2. 海洋, 3. 地球物理

の三部門に分かれ、このほか *Concurrent Meeting* があります。

3. 各部門関係のシムポジウムその他は次の如くです。

1. 気象 ----- 7種類 (いずれも第1週で東大構内)

2. 海洋 ----- 8種類 (全上)

3. 地球物理

UMP及び南極関係の二種類 (全上)

これらのシムポジウムの講演者は *Invited Speaker* によって構成され、既に大たいきまっております。なお各部門の *Divisional Meeting* は第2週に行われますが、その中気象は2種類、海洋は2種類、地球物理は6種類に分れております。

4. 関連する会議として

Congress Symposium に大気及び海洋の汚染に関するもの (第1週) 大平洋会議期間中又はその前後に *Concurrent Meeting* として次のようなものが開催される予定です。

UMC, UMC W.G. 1, CSK 調整員会議

Tropical Met. 海洋に関する標準化(?) 及び光合成関係, Int,

Conf. of Snow & Ice など。

5. 大平洋学術会議に参加希望者 (講演者も聴講者も含め) は、何れかの部門の幹事 (I, 寺武素二, II, 吉田耕造, III, 坪川家恒の諸氏) に申し込むことになっております。会場の都合で人数に制限があるかも知れません。なお、参加費については未定です。

6. *Divisional Meeting* に講演を希望する方は、できるだけ早く、アブストラクトを添えて、部門の幹事又は *Division* の *Organizer* (地球物理; 坪川、萩原、力武、水上、上田、本島, 気象; 島山, 海洋; 堀部、堀浦の諸氏) にお申し込み下さい。

申し込みの期限は一応きまっていますが、まだ余地があります。但し人数の制限のあることを申し添えます。

7. それぞれのシムポジウムについての講演者その他の詳細については、いずれ *Convener* からお知らせがあると思います。

藤原賞受賞候補者の推薦について

恒例により藤原科学財団より第7回の藤原賞受賞候補者を学会として推薦して欲しい旨の依頼がありました。文書はコピーを付して学会委員長及び評議委各位に送付致しました。

会誌の進行状況

17巻3-4合併号は総384頁の大冊になりました。これは既に皆様の御手許にとどいていることと思っております。もし余分に欲しい方には1部2000円で御領ち致します。18巻1号は同じく~~「ネズミ」をテーマとして発行~~
~~され、これまた200頁を越える豪華版になる予定であります。~~現在既に印刷中であり3月頃には御送り出来るものと思っております。

正会員会費値上げに伴う御注意

会報第19号、及び20号で既に御承知の通り、昭和40年度から正会員会費は年額1500円となりました。昭和40年度会費として値上げ案が総会で可決される前に800円を御納め頂きました方々は追加分700円を適当な機会にお払い込み下さい。当学会の振替番号は東京4860番です。

賛助会員勧誘のお願い

学会の苦しい会計を助けて頂くため賛助会費(年額一口5000円以上)をできるだけ御勧誘下さる様お願い致します。

新入会員紹介

会報21号以来現在までに下記の方々が新たに本学会に入会されました。

氏名(敬称略)	所属(又は連絡先)
松崎卓一	水路部
佐藤佳朝	東北大、理、地球物理
桜井亨	東北大、理、地球物理
畠野正徳	大阪市大、工、電気工学
堂下信之	京大、理、地球物理
山下喜弘	京大、理、地球物理
C. Polk	University of Rhode Island
E. J. Schwarz	University of Pittsburgh
J. R. Blake	University of Alaska
J. H. Allen	University of Alaska
L. Slaucitajs	University of Hawaii

以上